

# せったん

第156号 2015年3月15日

兵庫県保険医協会北摂・丹波支部  
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31  
神戸フコク生命海岸通ビル5階  
TEL078-393-1801 FAX 078-393-1802

## 北摂・丹波支部



講師を務める廣瀬支部幹事

# 《感想文》在宅医療点数研究会 在宅医療の請求に役立つ

北摂・丹波支部は2月21日、三田市総合福祉保健センターで「医科・在宅医療点数研究会」を開催。ひろせクリニック院長で支部幹事の廣瀬智先生を講師に、36人が参加した。サンヒルズクリニック職員の前田真穂氏の感想文を掲載する。

まず始めに、このたびは貴重なお話を聴かせていただきまして、誠にありがとうございました。在宅医療で算定する機会があるであろう点数について、一通りお話がありました。特にこ

れから在宅医療を学んでいきたいという方々にとっては、とても良い研究会となったことと思います。全国保険医団体連合会より発行の『在宅医療点数の手引』は見やすく、かつ詳細にまとめられていて、実際の請求事例なども豊富に掲載されており、参考にしやすいです。今回の講演で配布された資料は、この『在宅医療点数の手引』を要約した内容となっており、ため、あわせて見るとより分かりやすくなる点も良かったです。

講演内容の中で一番複雑だと感じたのは、在宅患者訪問診療料の「同一建物居住者の場合」でした。「死亡日から遡って30日以内の患者」は同一建物居住者から除かれるとありますが、前回の請求額を徴収後に急死された場合などは、既に同一建物居住者としての点数で請求し終えている例が多く、当院では結局そのままの点数となってしまうことがあります。その他にも、在宅の分野はケースバイケースの例も多く、こういった研究会の場をお借りして、今後討論できればと思いました。今後、またこのような機会がありましたらぜひ参加させていただきます。

【三田市 サンヒルズクリニック 職員 前田 真穂】

## 《感想文》院内感染対策研修会 ノロウイルスの対策法

### あらためて振り返る

北摂・丹波支部は1月31日、三田市健康福祉保健センターで院内感染対策研修会「ノロウイルスの感染対策〜備えあれば憂いなし!対策を学び乗り切ろう〜」を開催。済生会兵庫県病院感染管理認定看護師の小川麻由美氏を講師に40人が参加した。前橋内科循環器科医院看護師の今田啓子氏の感想文を掲載する。

小川麻由美先生の研修会には何度か出席させていただいておりますが、今回、スライドでの学習の後、実際にディスプレイ(使い捨て)のガウンや手袋を使用し、「手指等を汚染させずに脱ぐ」動作は、とても難しいということ、各自実体験できたのは大変有意義だったのではないのでしょうか。

30秒間の手洗いやアルコール擦式手指消毒の方法も、先生の説明と実践によ

## 「子ども医療費無料化」 「中3まで無料」 三田市でも実現へ

三田市は、2月18日に2015年度当初予算案を発表した。子どもの医療費について、無料化の対象を0歳〜中学3年生までに拡大すること(通院・入院共に所得制限なし)が盛り込まれた。予算案は3月議会でも可決・成立する見込み。「中3まで無料」を求め、協会、支部が市長、議会に対し運動をすすめてきた成果である。

北摂・丹波支部を構成する三田市・篠山市・丹波市のうち、丹波市と篠山市は中3まで無料を達成しているが、三田市は無料化が行われていなかった。協会は県下の全市町で無料化が実現するよう、今後も運動を進めていく。

り、分かりやすいものでした。そして、日々の業務の中で、自分自身が正しくできていないことを痛感し、また、反省する時間ともなりました。

相手は目に見えないものの。私たち一人ひとりの動作や、注意一つにより、感染が広がることにも、おさまることにも繋がるということを念頭に置き、個々の患者さま方を守るため、また自分自身も守るためにもこの研修会で得たことを生かし、明日からの業務に臨まなければならぬと感じました。

終わりに、先生にはご多忙な中、大変有意義な時間をいただきました。どうもありがとうございました。

【三田市 前橋内科循環器科医院 看護師 今田 啓子】



手指を汚染させずにガウンや手袋の着脱を行う参加者

兵庫県保険医協会 北摂・丹波支部 接遇研修会(医療安全対策研修会)のご案内

# 患者対応(受付・電話)のスキルアップ

◆日時 丹波市会場：4月11日(土)午後2時30分～4時30分  
三田市会場：5月30日(土)午後2時30分～4時30分

◆会場 丹波市会場：丹波市柏原住民センター 会議室A  
(丹波市柏原町柏原 5528 電話 079-572-2552 駐車場あり)  
三田市会場：三田市キッピーモール 6階多目的ホール  
(三田市駅前町2番1号 電話 079-559-5155 駐車場あり)

◆講師 マネジメントコンサルタント 松田幸子 先生  
◆定員 各会場とも30人(定員になり次第締切)  
◆参加費 1,000円(受講された方には受講証を発行します)

医療機関での接遇は、商店やデパートと異なり、患者さんの状況を推量して、適切な対応、声かけをするなど、健康に不安を抱えた患者さんが安心して頼ることのできるスタッフが特に求められています。

今回は、「患者対応(受付・電話)のスキルアップ」をテーマに、接遇ベテラン講師の松田先生より、身につけておくべき接遇の基本と、日々起こりうる様々なシチュエーションへの対応についてお話いただきます。新人の方に限らず経験豊富な方も、日頃の業務を見直す機会に、ぜひご参加ください。窓口や電話の対応で困った事例をお寄せ下さい。  
お問い合わせは協会事務局・石本、三田(TEL078-393-1807・9)まで

FAX 078-393-1802 北摂・丹波支部「接遇研修会」参加申込書

地区[ ] 市] 医療機関名[ ]

TEL[ ] FAX[ ]

参加者氏名	職種	経験年数	受講日(○印)
		年 カ月	4/11 ・ 5/30
		年 カ月	4/11 ・ 5/30
		年 カ月	4/11 ・ 5/30

《窓口・電話で対応に困った事例》



障害を持っていても安全・安心に暮らすにはどうしたら良いか、杉本先生が参加者に問題提起した

市内の看護師複数常駐の医療的ケアが対応できる生

部長など多くの責任者や関

れ、大変嬉しく思いました。

## 《会員投稿》

### 医療的ケアが必要な障害児者支援 過疎地での小さな試み

篠山市 杉本 健郎

現時点でできる医療的ケア児者への地域の支援の一策として、障害児者の場合は「3号研修」の実施がある。主治医の指示書と指導看護師の下で、非医療職が一定の研修後に吸引や経管栄養の実施にあたる。医療のみに依存しては、障害児者が24時間の家族支援を抜け出すことはできない。北欧のパーソナルアシスト制度のように、一人の

活介護がすでに定員を超えていた。過疎地である市で「医療的ケア」とはなんぞや」から始まり、どうしたら今後とも市内施設でニーズがある全員を、安心・安全に受け止めることができ

係者も含め100人が参加した。何に困っているか、市にはどんなリソースがあるか、どうしたら安全で安心な地域での生活が送れるかを議論した。

もう一つは「地域自立支援協議会」の活用である。これまでの障害者福祉支援の場を、2012年4月から自立支援協議会として運営活性化することを厚労省

まずは「顔の見える関係性」と「現状の課題」を確認するために、市民向け地域フォーラムを2014年12月13日の午後に開催した。人工呼吸器を常時装着した小学生の母親が、はじめて地域で発言する機会を得た。その場には市長以下、

【森下順彦支部長のコメント】  
今年1月に、今西良壽先生の瑞宝双光章受賞記念祝賀会に参加させていただきました。長年障害児教育に携わった今西先生はじめ、辻重五郎丹波市長、酒井隆明篠山市長ともお会いする機会があり、祝賀会のあいさつの中で、酒井市長は、篠山の障害児教育の流れを地域フォーラムの内容も引用しながら詳しく報告され、大変嬉しく思いました。